

施策名：安全で快適な交通社会の実現

事業名	担当課・室名	ページ
交通安全緊急対策事業	生活環境企画課	2 / 6
身近な道改善事業	道路保全課	3 / 6
交通安全施設等整備事業	道路保全課	4 / 6
高齢者交通事故防止対策推進事業	交通企画課	5 / 6
交通安全施設整備事業	交通規制課	6 / 6

事業名	交通安全緊急対策事業		事業期間	平成 20 年度～平成 27 年度		政策区分	安全・安心な暮らしの確立
						施策区分	安全で快適な交通社会の実現
総合評価	B	継続・見直し	事業実施課 (室) 名	生活環境企画課		評価者	生活環境企画課長 山本 章子

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	全交通事故死者数に占める高齢者の割合、高齢運転者の交通事故件数は高水準で推移している。また、飲酒運転による交通事故も根絶の社会的気運が高まっている中、依然として発生している。	事業の目的	飲酒運転に関する意識啓発や、高齢運転者・高齢歩行者を対象とした交通事故対策を実施することにより、交通事故をなくす。
-------	---	-------	---

[2. 事業内容と今後の課題]

(単位：千円)

活動名	活動内容	効率化の取組状況	コスト	25年度	26年度	27(予算)
飲酒運転根絶に関する広報啓発	飲酒運転根絶県民大会の開催 (参加者約200人) 飲酒運転根絶運動の実施 (11月20日～1月4日) 飲酒運転根絶功労者表彰 (1団体、2事業者)		総コスト	13,554	16,649	17,316
高齢運転者免許自主返納支援	運転免許証を返納した高齢者に割引等のサービスを実施する「サポート加盟店」の拡充 委託先：(公財)大分県交通安全協会	・サポート加盟店の開拓業務を外部委託	事業費	1,554	4,649	5,316
高齢者に対する交通安全教育	脳トレ型交通安全教室開催 (18市町村)	・県、県警、市町村と連携して交通安全教室を開催	(うち一般財源)	1,554	1,578	1,851
			人件費	12,000	12,000	12,000
			職員数 (人)	1.20	1.20	1.20

活動指標	指標名 (単位)	達成度	25年度	26年度	27年度	最終達成 (27年度)	評価	今後の課題	
								今後の課題	
高齢運転者免許自主返納者数 (人)	目標値		1,200	1,200	1,400	1,400	a	・サポート加盟店の拡大と高齢運転者免許者の免許自主返納の促進	
	実績値		1,362	1,812					
	達成率		113.5%	151.0%					
脳トレ型交通安全教室参加者数 (人)	目標値		1,600	1,600	1,600	1,600	a	・サポート加盟店の拡大と高齢運転者免許者の免許自主返納の促進	
	実績値		1,325	1,613					
	達成率		82.8%	100.8%					

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名 (単位)	達成度	25年度	26年度	27年度	最終達成 (27年度)	評価	事業の成果	
								事業の成果	
交通事故死者数 (人)	目標値		52以下	48以下	45以下	45以下	b	平成26年の交通事故死者数は前年から4人減少し、56人となった。うち高齢者の交通事故死者数は前年の40人から7人減の33人、飲酒運転による交通事故死者数は1人で、前年と同数であった。	
	実績値		60	56					
	達成率		86.7%	85.7%					

[4. 今後の方向性等]

今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
<p>今後の事業方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が自主的に運転免許を返納しやすい環境を早急に整備するため、免許返納者に様々なサービスを提供する「サポート加盟店」の開拓を緊急雇用創出事業により実施 ・飲酒運転根絶に向けた広報啓発を引き続き実施 				

事業名	身近な道改善事業		事業期間	平成 25 年度～平成 年度		政策区分	安全・安心な暮らしの確立
						施策区分	安全で快適な交通社会の実現
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課 (室) 名	道路保全課		評価者	道路保全課長 菖蒲 明久

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	通学路の安全対策など、地域住民にとって身近な道路に関する改善の要望が多く、より迅速に対応することが求められる。	事業の目的	生活道路の「利便性」及び「安全性」を向上させる。
-------	---	-------	--------------------------

[2. 事業内容と今後の課題]

(単位：千円)

活動名	活動内容	効率化の取組状況	コスト	25年度	26年度	27(予算)
地域に身近な道路整備	離合スペースや歩行空間の確保 (路肩改良：33件、簡易歩道：9件、側溝整備(蓋掛け含む)：21件) 通学路の安全対策 (通学路危険箇所対策：8件) 常時安全な見通しの確保 (防草工：12件、植樹帯撤去：3件) 良好な道路環境の確保 (舗装補修：18件、交通安全施設新設・修繕：10件) 等	一律の道路構造・規格を適用せず、地域の実情に即した工法・構造でコストを削減した。	総コスト	917,000	862,000	862,000
			事業費	855,000	800,000	800,000
			(うち一般財源)	276,510	286,000	286,000
			人件費	62,000	62,000	62,000
			職員数(人)	6.20	6.20	6.20

活動指標	指標名(単位)	達成度	25年度	26年度	27年度	最終達成(年度)	評価	今後の課題	
								目標値	実績値
	実施箇所数(箇所)	目標値	120	120	120		a		・要望箇所において、地域住民等の調整に不測の日数を要することがあるため、事前に地域住民や関係機関との調整を密に行い、事業を迅速かつ効率的に推進
		実績値	115	115					
		達成率	95.8%	95.8%					
		目標値							
		実績値							
		達成率							

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	25年度	26年度	27年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果	
								目標値	実績値
	要望に対応した箇所数(箇所)	目標値	604	667	780		a		地域住民からの要望に迅速に対応しており、要望箇所については、今年度115箇所の対策を行った。また、通学路合同点検等により抽出された通学路危険箇所のうち、8箇所の安全対策を実施した。
		実績値	508	617					
		達成率	84.1%	92.5%					

[4. 今後の方向性等]

今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
今後の事業方針 ・本事業に対しての地元要望は依然と多いため、引き続き県民のニーズにきめ細やかに応えることができるよう事業を継続する。				

事業名	交通安全施設等整備事業	事業期間	平成	年度～平成	年度	政策区分	安全・安心な暮らしの確立
		事業実施課(室)名	道路保全課			施策区分	安全で快適な交通社会の実現
							評価者

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	交通事故件数は依然として高い水準で推移しており、歩行者や自転車利用者の死亡事故の割合が高い。そのため、交通事故防止を図るため、歩行者・自転車・高齢者等の利用に配慮した整備を推進しなければならない。	事業の目的	路上での交通事故防止を図る。
-------	--	-------	----------------

[2. 事業内容と今後の課題]

(単位：千円)

活動名	活動内容	効率化の取組状況	コスト	25年度	26年度	27(予算)
(公) 地域活力基盤交通安全事業	歩道、自転車道、交差点改良等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、警察と連携した通学路合同点検の実施(H24～) ・事故危険箇所を指定し、集中的な事故対策を実施(H25) 	総コスト	11,111,347	11,508,464	12,436,422
(公) 地域活力基盤舗装道補修事業	既設舗装の補修		事業費	11,111,347	11,508,464	12,436,422
(単) 交通安全事業	道路付属物の整備、交通安全施設の維持・補修		(うち一般財源)	886,099	902,226	1,380,480
(単) 弱者事故対策事業	カラー舗装等の交通弱者事故対策		(うち繰越額)	5,050,825	3,430,002	3,381,274
(単) 側溝整備事業	道路側溝の整備		人件費			
(単) 舗装道補修事業	既設舗装の補修		職員数(人)			

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	25年度	26年度	27年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果	
		目標値							
		実績値							
		達成率							

特定交通安全施設等整備事業の推進に関する法律に基づき、歩道・自転車歩行者道の整備、交差点の改良、道路標識の設置等、交通安全施設を整備し、歩行者等の安全の確保と交通事故防止を図った。
成果については、下記の表のとおり。

[成果実績]

路線等の概要

		H26事業実施路線		事業箇所数
(公) 地域活力基盤交通安全事業	交通安全	国道213号ほか22路線		全32箇所
	災害防除	豊後高田国東線ほか44路線		全73箇所
	修繕	国道213号ほか10路線		全19箇所
(公) 地域活力基盤舗装道補修事業	国道	国道213号ほか16路線		全39箇所
	県道	主要地方道大在大分港線ほか63路線		全79箇所
(単) 交通安全事業	交通安全	国道197号ほか県内一円		県内一円
	災害防除	主要地方道豊後高田国東線ほか85路線		全183箇所
(単) 弱者事故対策事業	国道	国道213号ほか10路線		全28箇所
	県道	主要地方道中津高田線ほか43路線		全63箇所
(単) 側溝整備事業	国道	国道387号ほか8路線		全20箇所
	県道	主要地方道中津高田線ほか43路線		全50箇所
(単) 舗装道補修事業	国道	国道212号ほか9路線		全28箇所
	県道	主要地方道日田玖珠線ほか46路線		全71箇所

事業名	高齢者交通事故防止対策推進事業		事業期間	平成 26 年度～平成 28 年度		政策区分	安全・安心な暮らしの確立	
						施策区分	安全で快適な交通社会の実現	
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課 (室) 名	交通企画課		評価者	交通企画課長 横山 弘光	

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	高齢化の進展により、高齢者が当事者となる交通死亡事故が多発しているほか、交通事故発生件数及び負傷者数が高い水準で推移している。	事業の目的	高齢者の交通事故を減少させる。
-------	---	-------	-----------------

[2. 事業内容と今後の課題]

(単位：千円)

活動名	活動内容	効率化の取組状況	コスト	25年度	26年度	27(予算)
インターネットを通じた情報発信	県警ホームページ上に交通安全コンテンツの掲載 (13本)	・ホームページを利用した情報発信による効率化	総コスト		13,677	14,114
地域包括支援センターとの協働による高齢者の交通安全指導事業	県下の地域包括支援センターとの連携による、介護支援員等の家庭訪問等を通じた交通安全アドバイス (55センター)	・関係機関・団体と連携した高齢者に対する交通安全教育による業務の効率化	事業費		1,677	2,114
簡易型運転機能検査機リース・継続活用	簡易型運転機能検査機 (ミニぶんご) による交通安全教育 (216回、3,557人)		(うち一般財源)		1,677	2,114
			人件費		12,000	12,000
			職員数 (人)		1.20	1.20

活動指標	指標名 (単位)	達成度	25年			26年			27年			最終達成 (28年)	評価	今後の課題
			25年	26年	27年	25年	26年	27年	25年	26年	27年			
	交通安全コンテンツの作成本数 (本)	目標値		13		13		13				a	<ul style="list-style-type: none"> ・時節に合うタイムリーな情報発信 ・関係機関・団体の拡充 	
		実績値				13								
		達成率			100.0%									
	地域包括支援センター等との連携 (地区数)	目標値			55		77		77					
		実績値			55									
		達成率			100.0%									

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名 (単位)	達成度	25年			26年			27年			最終達成 (28年)	評価	事業の成果
			25年	26年	27年	25年	26年	27年	25年	26年	27年			
	交通事故死傷者数 (人)	目標値	7,500以下	7,000以下	6,500以下	6,500以下						a	高齢者の事故防止を図るため、県警ホームページ上に交通安全コンテンツを掲載し、タイムリーな情報発信を行うとともに、県下55の地域包括支援センターと連携して介護支援員等の家庭訪問を通じた交通安全指導を行った結果、平成26年の交通事故死傷者数は6,670人と目標値 (7,000以下) を達成できた。	
		実績値	7,498	6,670										
		達成率	100.0%	104.7%										

[4. 今後の方向性等]

今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
今後の事業方針 ・高齢者等に対する交通安全教育の高度化・充実化 ・関係機関・団体の拡充による交通安全教育の充実				

事業名	交通安全施設整備事業		事業期間	昭和 4 6 年度～平成 年度	政策区分	安全・安心な暮らしの確立
					施策区分	安全で快適な交通社会の実現
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課 (局・室) 名	交通規制課	評価者	交通規制課長 三浦 一也

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	高齢者が当事者となる交通死亡事故が多発しており、交通事故件数及び負傷者数が高い水準で推移している。	事業の目的	県民が快適な交通社会の中で安全に暮らせる。
-------	---	-------	-----------------------

[2. 事業内容と今後の課題]

(単位：千円)

活動名	活動内容	効率化の取組状況	コスト	2 5 年度	2 6 年度	2 7 (予算)
ゾーン対策の推進	ゾーン30(最高速度30km/h区域) 規制の実施 (5箇所)	事業箇所・内容の集約発注による効率化	総コスト	857, 665	854, 185	837, 552
歩行空間のバリアフリー化	視覚障害者用誘導標示の設置 (50m)		事業費	842, 665	839, 185	822, 552
事故危険箇所対策の推進	信号機の新設 (19基) ・高度化 (76基) 道路標識 (220本) ・道路標示 (16km)		(うち一般財源)	193, 991	209, 667	201, 716
			(うち繰越額)	33, 716		
交通円滑化対策の推進	交通管制エリアの高度化 (30基)		人件費	15, 000	15, 000	15, 000
		職員数 (人)	1. 50	1. 50	1. 50	

活動指標	指標名 (単位)	達成度	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	最終達成 (年度)	評価	今後の課題	
								指定道路の道路標識の整備数 (本)	目標値
	実績値	260	220						
	達成率	100.0%	100.0%						
信号機の新設数 (基)	目標値	34	30	30					
	実績値	34	30						
	達成率	100.0%	100.0%						

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名 (単位)	達成度	2 5 年	2 6 年	2 7 年	最終達成 (年度)	評価	事業の成果	
								交通事故死傷者数 (人)	目標値
	実績値	7, 498	6, 670						
	達成率	100.0%	104.7%						

[4. 今後の方向性等]

今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
--------	----	---------------	--------	----

今後の事業方針：

- ・ゾーン対策の推進
- ・通学路における交通安全対策の推進
- ・交通安全施設の整備において、施工箇所の選定等引き続きコスト削減を検討
- ・信号灯器のLED化等、信号機の改良・高度化を更に推進